

7909 杉子との次の約束の日、昼過ぎに・・・

杉子との次の約束の日、昼過ぎに祐子から電話がかかってきた。

「お会いしなければならないことができたの。ちょっと厄介なの」

「なんだか、ものものしいね。電話では言えないのか」

「いま、お一人・・・・・・・・」

自分の部屋に、佐々は一人でいた。

「一人だよ」

「でも、とにかく出てきてよ」

と祐子が言う。

「輪郭だけでも、いま話してほしいな」

「そうねえ……。つまりね、杉子が自分の部屋のガス管を開けちゃったの。救急車を呼んだりして、大変だったのよ」

一週間前に別れたときの杉子の投げやりな足取りと、斜めに歪んで広がったレインコートの裾が、反射的に佐々の眼に浮かんた。

吉行淳之介『夕暮れまで』

[許容訳例]

On the day of his appointment with Sugiko, he had a call from Yuko in the afternoon.

“I have to see you. Something awkward.”

“It all sounds rather exaggerated. Can’t you talk over the phone?”

“Is anybody there now?”

Sasa was alone in his room.

“No.”

“Anyhow, can’t you come?” said Yuko.

“I’d like to hear the outline at least now.”

“Well…in short, Sugiko turned on a gas tap in her room. The ambulance was called. It was awful.”

Involuntarily, Sasa recalled Sugiko’s self-abandoned walk and the crooked hem of her open raincoat as they’d parted a week before.

[翻訳例]

On the day that he’d next arranged to meet Sugiko, a call came from Yuko to the early noon.

“I’ve got to meet you, something’s happened. Something rather awkward.”

“You sound awfully portentous. Can’t you tell me over the telephone?”

“Do you have anybody with you?”

Sasa was in his own room, alone.

“No.”

“All the same,” said Youko, “you’d better come.”

“I’d rather you gave me the general picture at least now.”

“Well, then…you see, Sugiko turned on the gas tap in her apartment. There was a dreadful fuss—people calling ambulance and so on.”

Unbidden, there flashed into his mind an image of Sugiko as they’d parted a week before, with her devil-may-care walk and the hem of her wide-open raincoat all askew.

■杉子との次の約束の日、昼過ぎに祐子から電話がかかってきた。(7909)

★「約束の日に」には on the appointed day という表現があるのですが、next を加えて on the next appointed day という言い方はしません。それにこの phrase はフォーマルなときに使うか、あるいはフォーマルだからこそちょっとユーモラスな感じに、というときに使います。それから「約束」ですが、ここでは男と女が次に会う約束ですから、ビジネス関係や医者や美容院などの予約などの時に使う appointment も不適切です。また promise は大袈裟です。ここでは「打ち合わせる；取り決める」の arrange を使いたいです。

●「疑似連体修飾節＋体言」(杉子との次の約束の日)

日本語の「の」には連体修飾節を内包させる機能があります。ここの「杉子との次の約束の日」も、「彼が杉子と次に会うと約束したその日」という内容を短縮したものです。「日」(day)は不定代名詞的に使われる名詞なので、関係代名詞を使って on the day that he’d next arranged[agreed] to see Sugiko とします。

★「昼過ぎに」は afternoon (午後)と違って12時以降、だいたい1時までの間のことです。ですから、英語では in the early afternoon とするしかないでしょう。もっとも、Please come sometime after noon. (正午以降ならいつでもおいでください) という言い方もありますから、これを使うことも可能でしょう。

★「祐子から電話がかかってきた」は A call came from Yuko.でしょう。He had a call from Yuko.も可能です。

■「お会いしなければならないことができたの。ちょっと厄介なの」(7909)

●「連体修飾節＋体言」(お会いしなければならないこと)

「こと」が不定代名詞的名詞なので「代名詞＋関係代名詞」の形で処理しなければなりません。日本語に一番近い表現としては Something’s happened that I have to [have got to] see you about ですが、I have a bit of trouble that I have to see you about でも許されましょう。しかし、切羽詰まった感じは出ませんので。「お会いしなければならないの。ことができたの。」と分けて I’ve got to meet you, something’s happened.とするとその感じが出ます。

★「ちょっと」は rather くらいでしょう。

★「厄介な」は troublesome でもいいですが、日本語の「厄介なの」の中には a nuisance とか difficult to deal with の含みがあるので awkward が一番会話的です。

■「なんだか、ものものしいね。電話では言えないのか」(7909)

●[主観連結] (なんだか、ものものしいね)

[主観連結] は、日本語では文末に、英語では主動詞の前に主観語が付加されるものです。ここでは、主観付加語がそのまま本動詞となって使える場合で It all sounds rather…とか You sound awfully…です。

★「ものものしい」は exaggerated でもいいですが、ここでは「これから相手が驚くような、または不安がるようなことを言おうとしている」という感じがあるので portentous がいいでしょう。難しい単語のようですが、一応教養のある人なら会話の中で使います。

★「電話では言えないのか」は Can't you tell me over the phone?か Can't you talk over the phone?です。なお、speak は convey information の意味ですから、ここでは使えません。

■「いま、お一人……………」(7909)

★これは「お一人↑」と語尾は上がるでしょうから、疑問文でしょう。Are you alone?/ Is anybody there?/ Do you have anybody there [with you]?など、言い方はいろいろありますが、いずれの文も時制が「いま」を表しているなので now を入れる必要はありません。

■自分の部屋に、佐々は一人でいた。(7909)

●「…………[て]…………だった」

「自分の部屋に、佐々は一人でいた」は「佐々は自分の部屋にい[て]一人だった」という二つの情報を纏めたものですが、「自分の部屋にいた」に比重がかかっています。したがって、「主動詞(Sasa was…)+句(, alone)」(Sasa was in his room, alone.)で変換します。Sasa was alone in his room.も可能ですが、これでは「一人でいた」に比重がかかってしまいます。

■「一人だよ。」(7909)

★「一人だよ」は「いま、お一人……………」に対する答えですから、Are you alone?なら Yes.でしょうし、Is anybody there?/ Do you have anybody with you?なら No.です。

■「でも、とにかく出てきてよ」と祐子が言う。(7909)

★「でも、とにかく」はひっくるめて、anyhow でもいいですが、Even so とか All the same も使えます。

★「出てきてよ」の「出てくる」は come out ですが、ここでは「(とにかく)自分のいるところまで来て」というニュアンスですから out は不要です。日本語の感じでは少し強引さが含まれているようなので You'd better come. がいいでしょう。

★「…………と祐子が言う→…………と祐子が言った」は固有名詞が主語なので、“…,” said Yuko. の語順になります。

■「輪郭だけでも、いま話してほしいな」(7909)

★「輪郭」は「一応必要なことを説明して欲しい」という場合ですから、(give me) the general picture くらいでしょう。「輪郭」に outline はあまり使いません。the sketchy outline ならいいかもしれません。

★「だけでも」は at least です。

★「いま話して欲しいな」は I'd like to hear…でもいいですが、年上の男ですし、呼び出されるという状況なので、I'd rather you gave me…がよいと思います。なお、文法的には「would [had] rather that + 仮定法」なのですが、たとえば、I would rather he told you. (彼が君に話してくれるといいんだが。) のように、通常 that は省きます。

■「そうねえ・・・。つまりね、杉子が自分の部屋のガス管を開けちゃったの。(7909)

★「そうねえ」は、どうしようかと考えているのですから Well か Well then [now] がいいでしょう。

★「つまりね」は in short がすぐ浮かびますが、男の佐々とか年を取った女ならいいのですが、若い女のセリフとしては違和感があります。ここの「つまりね」は「これから説明する」という意味で you see がいいでしょう。アメリカなら it's like this を使う人もいます。

★「自分の部屋の」は「自分の部屋で」で、in her room でいいのですが、room と「ガス管」との関係があいまいです。in her apartment にしたいです。

★「ガス管を開ける」は turn on the gas tap です。

■「救急車を呼んだりして、大変だったのよ」(7909)

◆定冠詞と不定冠詞(救急車)

「救急車」は数えられる名詞ですから、一台なら an ambulance ですが、「こういうときには必ず登場するもの」として the ambulance です。

◆能動態と受動態(救急車を呼んだり・・・)

主語は不明ですから、「救急車が呼ばれたり・・・」と考えると The ambulance was called. ですが、英語では受動態より能動態を好みます。たとえば、「スイスから帰ってきたジョージおじさんからスイス製の時計をもらいました。」は On his return from Switzerland, Uncle George gave me a Swiss made watch. と変換します。それで、ここは People called the ambulance. がいいでしょう。

★「大変だったのよ」は「大騒ぎだったのよ」と考えて、There was a dreadful fuss. がいいでしょう。fuss の代わりに commotion もいいのですが、これだと、騒ぎの表面的なところを強調することになります。

◆「複数」の効能

救急車は一台だったかもしれないし、人もそれほどたくさん集まったわけではないかもしれませんが、後に続く「大変だったのよ」と考え合わせると、ambulances と複数で使うことで、話を誇張したり、vivid にその場面を強調したりすることができます。

●「・・・り[して] , ...だったのよ」

伝えたい情報は前に置くという英語の規則にしたがうと情報の順序が日本語とは逆になりますが、一つの文の中で {単位情報} を二つ使う場合には「主動詞(There was・・・) + 句 (people calling)」の形で There was a dreadful fuss—people calling ambulances and so on. と処理することもできます。

■一週間前に別れたときの杉子の投げやりな足取りと、斜めに歪んで広がったレインコートの裾が、反射的に佐々の眼に浮かんだ。(7909)

★「一週間前に」は a week before です。ago には「今から」の意味が入るので、ここでは使えません。

★「(一週間前に) 別れた [ときの]」は「投げやりな足取り・・・」を見ていたのですからいくらかの時間が含まれ、「別れた瞬時に(when)」(瞬時同時)ではなく「暫時同時」なので as they'd parted a week before です。

★「杉子の投げやりな足取り」の「投げやりな」は devil-may-care (どうにでもなれ) とか、self-abandoned がいいでしょう。apathetic (感情をあらわさない) はここでは合いません。「足取り」は walk です。

★「斜めに歪んで広がったレインコートの裾」は(with) the hem of her wide-open raincoat all askew でしょう。(all) askew は「(すっかり) ゆがんで・曲がって」という意味の叙述形容詞です。

★「反射的に」は、ここでは「聞いたその途端に、自分が思い出そうとしたのではないのに、思わず浮かぶ」ですから unbidden がいいでしょう。involuntarily も許されますが、reflexly は自発性の点でちょっとずれます。

★「佐々の眼に浮かんだ」は「佐々」を主語にして Sasa recollected [recalled] Sugiko's A and B.でもいいのですが、もっと日本語の「眼に浮かんだ」に近い表現にするには an image of Sugiko を主語にして came to his mind や flashed into his mind を使う方がいいでしょう。ただ、an image of Sugiko came to his mind [flashed into his mind]…とすると、her devil-may-care walk とか the hem of her wide-open raincoat all askew と距離が遠くなりすぎるので、たとえば、There arose a tense atmosphere. (緊張した雰囲気になった) のように、「生起・出現の自動詞」と共に使うことのできる形式代名詞 there を主語に立てて There flashed into his mind an image of Sugiko… with A and B.とするといいでしょう。